

2019年度 事務事業評価(2018年度実施事業事後評価)シート / 2020年度 実施計画調書 (新規 拡充 縮小 休止・廃止 現状維持)

1 事務事業の基本情報										整理番号	021									
事務事業名	右下総合福祉センター運営管理経費					補助区分	<input type="checkbox"/> 国補 <input type="checkbox"/> 県補 <input checked="" type="checkbox"/> 市単	終期	<input type="checkbox"/> 決まっている (年度まで) <input checked="" type="checkbox"/> 決まっていない	予算科目	区分	一般会計	款	03	項	01	目	09	事業	01
担当部	保健福祉部	担当課	社会福祉課		担当係	社会														
位置付けられている計画等	<input type="checkbox"/> じょうそう未来創生プラン前期基本計画 <input type="checkbox"/> 市長マニフェスト「常総創生への道しるべ」 <input type="checkbox"/> 常総市復興計画 <input type="checkbox"/> 市民等からの要望 <input type="checkbox"/> 常総市まち・ひと・しごと創生総合戦略 <input type="checkbox"/> その他の計画 (名称:)					根拠法令及び市条例等	<input type="checkbox"/> 国の定める法律 (名称:) <input type="checkbox"/> 国・県からの通達等 (名称:) <input checked="" type="checkbox"/> 市の条例・要綱・規則 (名称: 常総市右下総合福祉センターの設置及び管理に関する条例)													

2 事務事業の目的

⇒ 当該事業を実施することで、①「望ましい状態」とはどのような状態か? → ②一方で、「現状や課題」はどうか? → ③そのためには何をすべきか? という過程で考えていただいても結構です。

現状課題	本来、当該センターは、市民の生きがいがつくり、保健予防及び健康づくり、介護予防及び生活支援、障害者の自立及び社会生活支援等の業務を通じ、市民の福祉の向上並びに健康の保持及び増進に資するために設置したが、現在では保健福祉関係の職員が配置されておらず、健診業務での利用や福祉団体等による会議室の利用が中心となっている。また、建設後17年が経過し、設備の老朽化が進んでおり、お風呂の温度調節ができない、エアコンが利かない等のトラブルも増えている。	誰・何を対象に	①福祉センター設備、②福祉センター自体	望ましい状態	①設備の不具合のない安定した施設運営及び快適で良質なサービスの提供 ②本来の設置目的に沿うよう、保健福祉関係の部署が事務室として使用し福祉・保健に関する業務を提供するとともに、会議室を一般に貸し出す形にする。
どのような方法・手順で			①福祉センター設備の大規模修繕を行う、②福祉センターのあり方を検討する、業務の見直しを行う		

3 事務事業の主たる成果指標

⇒ 数値目標(定量)の設定が困難な場合は、文言目標(定性)でも結構です。なお、指標名・目標値とも設定が困難な事業は空欄でも結構ですが、この場合、設定できない理由を分かりやすく・具体的に記入してください。

指標名	浴室・大広間の利用者数	単位	人	目標値	4,000	目標年次	2022年度	指標及び目標値設定の考え方(又は指標・目標値を設定できない場合の理由)	平成29年度の利用実績が、浴室約10,000人、大広間約3,500人であることを踏まえ、次の2つの理由により目標数値を設定した。①仮に浴室を廃止した場合は約10,000人減ること、②大広間の利用者は実績の3,500人から伸びても4,000人程度と想定したこと。
-----	-------------	----	---	-----	-------	------	--------	-------------------------------------	--

4 事務事業の実績 ①

⇒ 当該事業の予算を使って、『どのような業務をどの程度実施したか。』を記入してください。なお、業務が12個以上ある場合、代表的なものを最大12個記入してください。

年度	2016年度		2017年度		2018年度							
	業務名	活動量	業務名	活動量	業務名	活動量						
事務事業を構成する主な業務	① 浴室・大広間の利用受付、貸出、利用料収受	51日	① 浴室・大広間の利用受付、貸出、利用料収受	301日	① 浴室・大広間の利用受付、貸出、利用料収受	295日						
	② 備品の貸出	51日	② 会議室利用の利用受付、貸出、利用料収受	301日	② 会議室利用の利用受付、貸出、利用料収受	295日						
	③ 施設の維持管理	51日	③ 備品の貸出	301日	③ 備品の貸出	295日						
	④ 施設入居団体との連絡調整	10日	④ 施設の維持管理	301日	④ 施設の維持管理	295日						
	⑤		⑤ 施設入居団体との連絡調整	60日	⑤ 施設入居団体との連絡調整	60日						
	⑥		⑥		⑥							
	⑦		⑦		⑦							
	⑧		⑧		⑧							
	⑨		⑨		⑨							
	⑩		⑩		⑩							
	⑪		⑪		⑪							
	⑫		⑫		⑫							
	目標値に対する実績値	0 人	目標値に対する実績値	13130 人	目標値に対する実績値	12670 人						
決算額	計	10,961,407 円	内訳	特定財源 571,500 円 一般財源 10,389,907 円	計	32,225,338 円	内訳	特定財源 2,548,200 円 一般財源 29,677,138 円	計	32,246,196 円	内訳	特定財源 2,578,180 円 一般財源 29,668,016 円
		(住民一人あたりの行政コスト)	180 円	(住民一人あたりの行政コスト)	533 円	(住民一人あたりの行政コスト)	537 円					

5 担当者評価 ②

⇒ 実施したことによる成果や問題点を記入してください。

成果	目標未達成	成果内容	水害後、はじめて年間を通じて開館したが、お風呂の温度調節ができないといった不具合が生じ、浴室の利用ができない状態になった。
問題点			・お風呂については、維持に相当な金額がかかっており、福祉センターの上下水道の8割、灯油代の6割がお風呂の分である。仮にお風呂を廃止すると800万円が削減できる試算であり、利用者も固定化している施設であるため、お風呂の廃止を検討すべきである。 ・築18年を経過するが、これまで大規模な修繕を行なわなかったことに加え、水害後にしばらく機械を動かさなかったこともあり、機械の不具合が増えつつあるので、機械設備の大規模な修繕を検討すべき時期である。

6 担当部長及び担当課長評価 ③

⇒ 担当部長・課長で協議のうえ、評価してください。

事務事業の方向性

拡充 現行どおり 縮小 休止・廃止

評価理由

施設の利用状況を勘案しながら、施設全体の経費削減を行う必要がある。そのなかで、利用実人員が約50名程とほぼ固定客化されている入浴施設については、リハビリ等の福祉関連施設が併設となって健康面での入浴利用がなされているわけでもなく、多額な予算を充当しながら継続していく必要性は低いと考える。

7 実施計画 ④

⇒ 今後3年間の事業内容について、どのようなことをどの程度実施していくつもりなのか、具体的に記入してください。なお、予算額の「歳出の計」と「歳入の計」は一致させてください。

年度	2019年度	2020年度	2021年度						
事業内容	一般利用者への貸出業務 ・浴室の受付、貸出、利用料収受 ・会議室利用の受付、貸出、利用料収受 ・備品の貸出 施設入居団体との連絡調整業務 ・契約、利用、休館等に関する連絡調整 ・電気料金等の収受 施設の維持管理業務 ・機器借上、保守管理、清掃等の各業者との契約、連絡調整 ・市直営による草刈、枝払い ・故障した機器の修繕 ・JAサービス空調設備増設工事	一般利用者への貸出業務 ・会議室利用の受付、貸出、利用料収受 ・備品の貸出 施設入居団体との連絡調整業務 ・契約、利用、休館等に関する連絡調整 ・電気料金等の収受 施設の維持管理業務 ・機器借上、保守管理、清掃等の各業者との契約、連絡調整 ・市直営による草刈、枝払い ・故障した機器の修繕	一般利用者への貸出業務 ・大広間の受付、貸出、利用料収受 ・会議室利用の受付、貸出、利用料収受 ・備品の貸出 施設入居団体との連絡調整業務 ・契約、利用、休館等に関する連絡調整 ・電気料金等の収受 施設の維持管理業務 ・機器借上、保守管理、清掃等の各業者との契約、連絡調整 ・市直営による草刈、枝払い ・故障した機器の修繕						
成果指標	指標名 浴室・大広間の利用者数 単位 人 目標値 4000	指標名 大広間の利用者数 単位 人 目標値 0	指標名 大広間の利用者数 単位 人 目標値 4000						
予算額	歳出	計	34,731 千円	歳出	計	28,256 千円	歳出	計	28,256 千円
		特定財源	3,619 千円		特定財源	3,444 千円		特定財源	4,644 千円
	歳入	一般財源	31,112 千円	歳入	一般財源	24,812 千円	歳入	一般財源	23,612 千円
		計	34,731 千円		計	28,256 千円		計	28,256 千円

8 財務アドバイザーの見解

6の評価理由にあるように、市が本事務事業を行う必要性がわからない。市が毎年3千万円を費やしてまでやるべきことなのであろうか。休止・廃止も選択肢として、本事務事業の必要性和計画に関するゼロベースの検討を期待する。

9 行政改革懇談会(市民)の意見

担当部長及び担当課長評価のとおりでよい。
特に入浴施設に関しては縮小が適当であり、今後はセンター全体の利活用について考えていかなければならない。

10 最終評価(行政改革推進本部) ⑤

事務事業の方向性

拡充 現行どおり 縮小 休止・廃止

評価理由

当センターは、市民の福祉の向上並びに健康の保持及び増進に資するため、設置されているものである。センターの設置の趣旨に鑑みながら今後も施設運営をし、財務アドバイザーの見解を含め、財源不足を考慮し、施設運営には経費削減等を念頭に見直しをされた。

11 事務事業の改善理由及び改善部分 ⑥

⇒ 実施計画のみ作成する場合の拡充・縮小・休止・廃止部分もこの欄に記入してください。

事業内容